



# 全教北九州

新聞 全教北九州  
全教北九州市教職員組合  
2025年5月23日

全教北九州

検索

給特法等改定案批判 特集

この新聞はすべての教職員に配布しています

## 給特法改定案では長時間過密労働は解消しない

### 解決策は業務量を削減し教職員を大幅に増やすこと

5月15日、衆議院本会議において、政府の給特法等改定案が可決されました。全教は、政府の給特法等改定案の廃案を求め、本会議や委員会の傍聴行動や国会前集会、国会議員への働きかけ、街頭宣伝や記者会見をおこない、その問題性を広くアピールしてきました。

### 運動と論戦で明らかになった「給特法」改定案の問題点

4月10日、第217回通常国会において、「公立の義務教育諸学校における教職員の給与等に関する特別措置法（給特法）」等の一部を改定する法案が審議入りしました。私たちの運動と国会での追及によって「給特法」改定案の問題が明らかとなるなかで、4月中旬の衆議院通過はできなくなりまして。しかし、5月14日、給特法等改定案は衆議院文部科学委員会

修正のうえ、自民・公明・立憲・国民・維新の賛成多数で採決されました。翌5月15日の衆議院本会議では、質疑をしないまま採決されました。

### 長時間労働を抑制できない「教職調整額」

給特法により、教員は残業代が支払われない代わりに、4%が給料に「教職調整額」として上乗せされています。

しかし、この教職調整額は時間外労働の対価ではなく、あくまで教員の勤務の特殊性に配慮したものであり、時間外労働を抑制する効果は期待できません。実際に多くの教員が長時間労働を強いられるっており、過労死ラインである月の時間外労働が80時間を超えて働いている例も少なくありません。

### 時間外勤務は「自発的・自主的な活動」ではない

教員の時間外勤務は「自発的・自主的な活動」として、労働基準法上の労働時間とみなされません。時間外勤務や残業という用語が使えないため「在校等時間」という用語が生み出されました。時間外勤務とみなされないために、休日

出勤や持ち帰り仕事、休憩時間中の勤務などが正確に把握されず、過労を防ぐための対策を講じることが困難になっています。

### 「定額働かせ放題」は解決しない

このような理由から、給特法は「定額働かせ放題」と批判されています。教職調整額の支給率が4%から10%に引き上げられても、根本的な問題解決にはなりません。

### 給特法は教員の健康と精神を蝕む

長時間労働や過大な業務量は、教員の精神的な負担を増加させ、休職や退職に追い込まれるケースも発生しています。給特法の問題は、単に金銭的な問題だけでなく、教員の健康に関わる問題です。

### 現状に合わない給特法

給特法は教員の職務の特殊性や、時間外労働の状況を踏まえ、給与や勤務条件について特例を定めるという趣旨で作られました。しかし、時代とともに教育現場の状況は変化しており、給特法は教育現場の現状に合わなくなっています。教員の過大な業務量の削減を進めるとともに、教職員を大幅に増やすことが現状の解決策です。

Webでお見積

Webでお見積

### 北九州の戦争遺跡

#### 西南女学院 ロウ記念講堂① (小倉北区)

白い外壁のロウ記念講堂は、西南女学院中学校・高等学校の敷地内にあり、1935年に創設者のJ・H・ロウ氏を記念して建設されました。この頃から関門海峡を一望できる立地、キリスト教系の学校であること、外国人が運営、教育に関与していることから学院への風当りは厳しくなりました。

完成直後、小倉憲兵分隊は、屋上を使用しないよう求めました。この時は東方遙拝のとき以外は立入禁止、屋上と校内に写真撮影禁止の高札を立てることで決着しました。

37年7月、日中戦争が始まると防衛体制の整備が促進されました。8月、陸軍は小倉市に中国・四国・九州の防空を担当する「西部防衛司令部」を設置し9月に講堂と一部の寄宿舎を接収しますが、司令部の福岡市移転に伴い12月に解除しました。この時に外壁に迷彩塗装を実施しました。以後、各地で学校校舎の迷彩塗装が実施されました。



委員会通過後の全教北九州教職員組合連合会による抗議行動。弁士は全教の榎原委員長

# 集まり、語り合うことの力

5/17 全教北九州市教職員組合第18回定期大会

第18回定期大会では、様々な課題が議論されました。特に、給特法改正法案を巡る情勢、深刻化する教員不足とそれによる職場の疲弊、特別支援教育や学校事務職員が直面する困難、そして部活動の地域移行の歪みなどが主要なテーマとなりました。

また、日頃の平和に関する親子の会話の中で、息子さんが「女に生まれたかった」と言うほど、戦争が身近で恐ろしいものとして捉えられていること報告され、「絶対将来そういうことにさせないように」という強い思いが語られました。

## 特別支援教育の現状の課題

山元幸一全教書記次長は、給特法改正法案審議について、教育予算は増やせないという思い込みに囚われていること、子どもたちも教職員も競争させないと頑張らないという思い込みに基づき、現場を全く信頼しない教育政策の誤りを認めようとしないうちに、当事者である私たち教職員の声を聞かず政策決定に関与させないことを指摘しました。打開のためには政治の転換が必要であり、来る参議院選挙では、積極的な参政権行使で政治を転換させようと訴えました。

## 沖縄平和の旅と平和教育

昨年末の沖縄平和の旅の感想では、平和祈念公園で配布されたパンフレットに記載された亡

くなった方々の背景を想像しながら名前を探した経験や、ガマ(壕)に入った体験が語られました。特に、日本兵が奥に待機し、一般市民を入口付近に置いてたというガイドの説明に息子さんが衝撃を受けた話が紹介されました。

また、日頃の平和に関する親子の会話の中で、息子さんが「女に生まれたかった」と言うほど、戦争が身近で恐ろしいものとして捉えられていること報告され、「絶対将来そういうことにさせないように」という強い思いが語られました。

## 特別支援教育の現状の課題

全教障害児教育部総会の報告では、校舎の老朽化、教室不足、インクルーシブ教育の推進における課題、教員不足による学校運営の困難さが挙げられました。児童生徒数が増え続ける現状に対し、新築校舎でも短期間で教室を分割せざるを得ない状況が報告されました。支援が必要な児童生徒数の増加と教員不足が深刻化しており、「人数が多すぎてぎゅうぎゅうの状況状態がずっと続いているから、これからどうしたらいいんだろうか」と、現場の窮状が訴えられました。

## 学校事務職員の現状と課題

学校事務職員が各学校に原則1名しか配置されておらず、困難な状況にあることが組合に伝わりにくいと報告されました。

事務職員への声かけの依頼がありました。

大きな問題として、児童生徒数300人未満の学校への学校事務補助員の未配置により、本来学校事務補助員が担当していた校納金や就学援助に関する業務を正規職員が一人で抱え込む状況が生まれていることが報告されました。

また教育委員会からの業務改善が、実際には学校事務職員への業務の横流しになっている現状が訴えられ、抜本的な業務改善の必要性が強調されました。具体的には、校納金の徴収や滞納者への催促を学校ではなく教育委員会が行う公会計化などが提案されました。

## 組合活動の重要性

活発な討論を通じて現場の生の声が共有され、組合として組織的に取り組んでいくことの重要性が繰り返し確認されました。政治の転換の必要性、教員の仕事の魅力を発信することの意義、そして組合が集まり、語り合うことの力が強調された大会となりました。

# 安心して長く働き続けることが出来る職場を

5/15 全教北九州、教育委員会と春闘交渉

5月15日(木)、全教北九州市教職員組合は、春闘要求書にもとづいた交渉を行いました。1時間と限られた時間でしたが、賃金の引き上げをはじめ多岐にわたる現場の声を届けました。



教育長(中央)に春闘要求書を手交する執行委員長(左)

## 働き方に関して

24年の人事委員会勧告で「在校時間は減少しておらず、教職員の厳しい勤務環境が改善されている」とは言い難い状況にある。と指摘を受けたにもかかわらず、具体的な働き改革の施策を昨年の確定交渉で示さなかったことを指摘し、具体的施策の提示と実施を求めました。技術家庭科等の教員に対する兼務発令を廃止すること、短時間勤務職員が担任をしないような人員の配置、昼休みの完全確保等を求めました。

## 事務職員に関して

事務職員の分野では、児童生徒数300人以下の学校への事務補助の配置を復活させること、教育委員会への割愛採用は本人の希望にもとづき実施すること等を求めました。

## 学校設備に関して

4月以降に判明した問題についても要求しました。本年度、国の予算がつかなかったことを理由に中止した学校の大規模改修を実施することを求めました。

## 全教北九州 ホームページ

新聞、要求書、権利パンフの閲覧等ができます。

